

大徳寺の草庵茶室の芸術性について~禅宗思想からの考察~**【研究背景】**

日本の伝統的な建築が好きで、最近興味を持った「茶道」と合わさった「茶室建築」を研究したいと思った。さらに、茶道が禅宗の影響を受けていると聞いたことがあったため、その思想が茶室にどう反映されているかというテーマを設定した。

【リサーチクエスチョン】

禅宗思想は「表現建築」としての茶室の芸術性に影響を与えているのか？

【先行研究】

近藤康子「近代建築家の茶室論にみる茶の湯の生活空間に関する研究」(2014)

【研究方法】

第1章では「茶道と禅宗の関係」について、第2章では「大徳寺の草庵茶室の芸術性」について論じ、最後にRQに対する考察・まとめを行う。

<第1章>

1. 茶道と禅についての文献研究
2. 考察

<第2章>

1. フィールドワーク
 - a. 大徳寺瑞峯院
 - b. 大徳寺大仙院
2. 鑑賞内容をブレインストーミング
3. KJ法を用いて、美的概念で概念化
4. フラクタル次元による美の分析
5. 考察

【参考文献】

- ・笠井哲『『禅茶録』における茶禅一味について』
- ・東都 寂庵 宗澤 著, 片野 慈啓 訳「禅茶録(その一)」
- ・安部直樹「茶道書にみる茶道研究の概説」

【研究結果】**<第1章>**

問い: 草庵茶室は禅宗によってどのような影響を受けたのか？

結論: 茶道は「自性了解」という思想面で禅宗の影響を受けている。

理由: 茶道と禅の修行の目的が類似しているから。

引用:

①『茶道本来の「精神」とは自己本来の面目を悟ることである』(『禅茶録』における茶禅一味について)より)

※禅の修行の目的は「自分自身の存在の真実を探ること」と定義されている。

②元々茶の湯は薬や闘茶に使われるものだったが、禅を学んだ一休や村田珠光などが禅の考えを重ねて茶道を行っていった事で、精神統一のためのものになった。

<第2章>

問い: 大徳寺の草庵茶室に芸術性があるか？

結論: 「閑寂的」且つ「閉鎖的」という美的概念によって芸術性があると言える。

理由: 外部の自然を断った、静寂で暗めで小さな空間や、木の色と黒っぽい色で統一された色調が芸術的な雰囲気を作っているから。

例示: 【資料①】を参照

補足: 「フラクタル次元による茶室空間の美の分析」からも、芸術性が証明できる。

※【資料②】~【資料④】を参照

【考察・まとめ】

結論:

禅宗の「自性了解」という思想が、茶室の閑寂的で閉鎖的な環境に影響している。

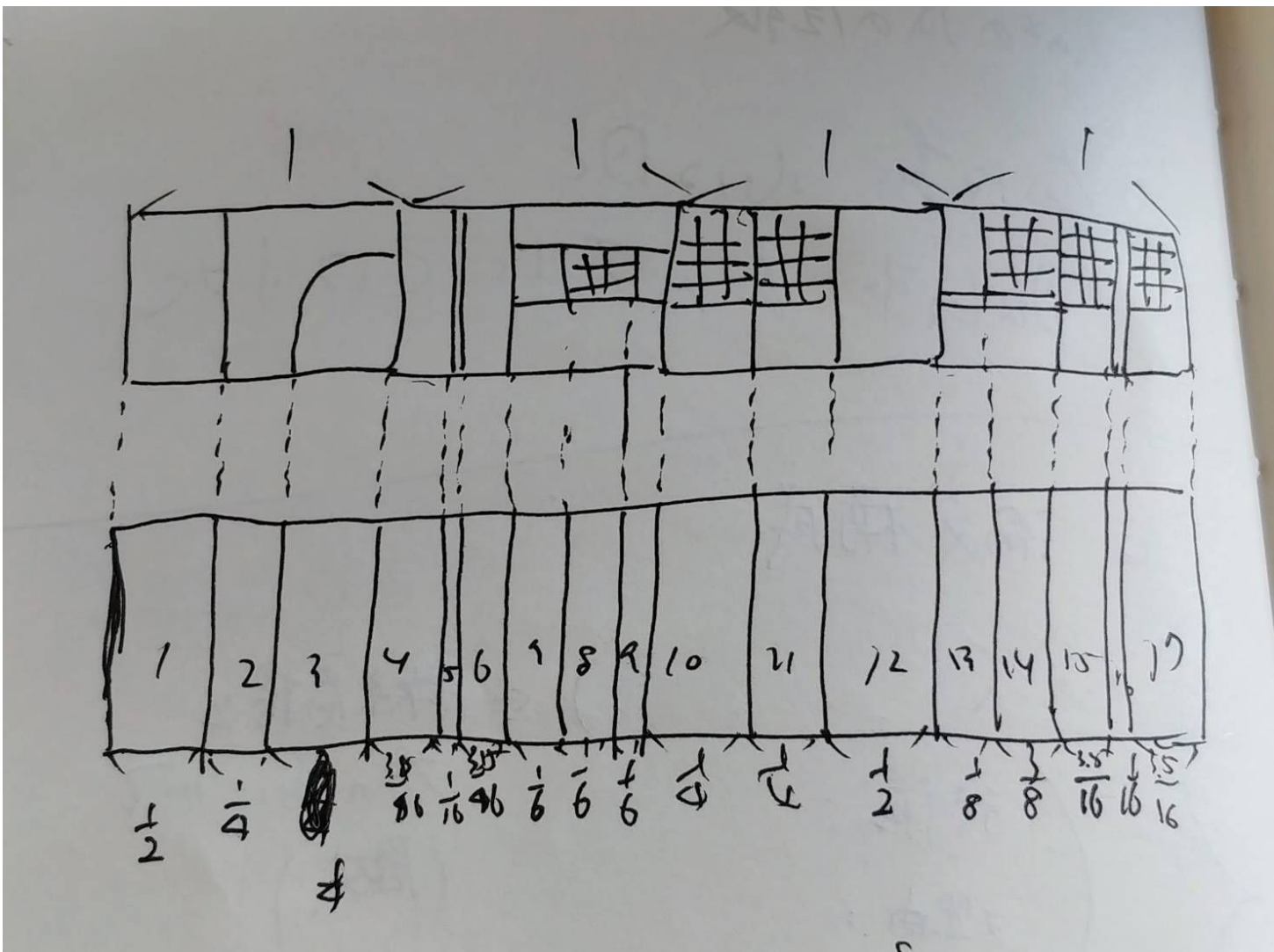
理由:

禅宗の自性了解という思想を茶道に盛り込むために、閉鎖的な草庵茶室ができた。このような特性を持つ草庵茶室が、閑寂的な芸術性も持っているということから、禅宗思想は芸術性に影響を与えていると言える。

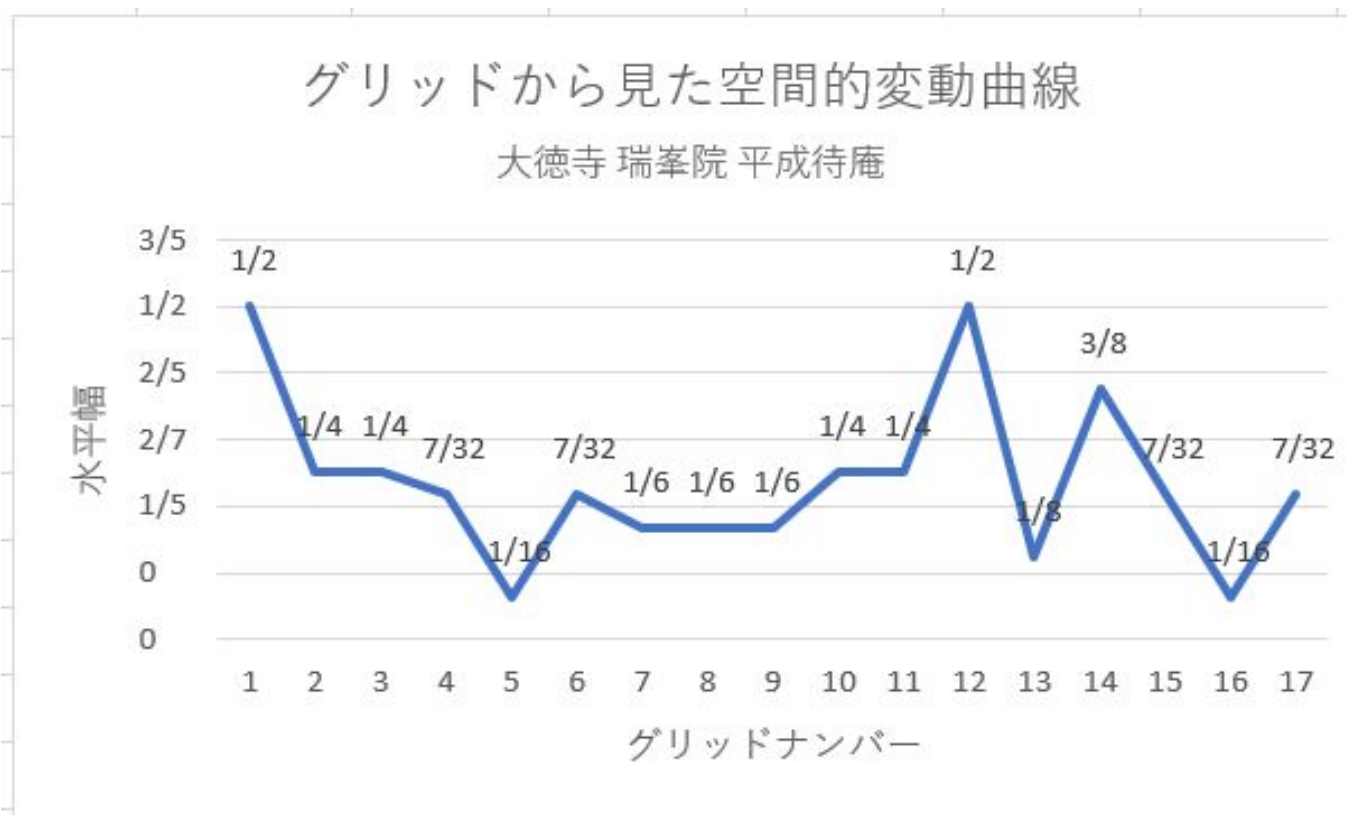
【資料①】大徳寺瑞峯院 平成待庵の写真



【資料②】大徳寺瑞峯院 平成待庵の側面展開図と水平幅



【資料③】大徳寺瑞峯院 平成待庵 グリッドで見た空間的変動曲線



【資料④】フラクタル次元の算出

変動曲線から見た最大値と最小値の差の回帰曲線

